

下関西高等学校 進路だより

令和7年6月号 進路指導部

読書の梅雨？しっかり本を読もう！

高校総体、旭陵祭が終わり、3年生は受験モードが加速されると期待しています。それを見据え、先日の全校終礼後に話をしました。最初に、その内容を、共有したいと思います。受験の主役は3年生ですが、サポートなどは全校体制で臨むことが重要です！

- ・向こう3カ月間の**受験戦略**をきっちり立ててください。その際、担任、副担任、教科担当の先生方と繰り返し**面談**をし、それを踏まえて計画を立ててください。**この時期の猛勉強が入試結果に直結**することは言うまでもありません。**夏は受験の天王山**です。
- ・模試試験についてですが、西高は**7月のベネッセ総合学力記述模試には参加しません**。その代替として**7月、8月実施の個別大学の模試を受験するように指導しています**。良問が多く復習として**適当な、これらの全国模試を受験し、秋以降に取り組むべき課題を確認して欲しい**と思います。
- ・西高では志の高い集団、地域社会から応援してもらえる受験集団を創り、目標に向かうように指導しています。その実現に向け、自分から**挨拶をすること、スカート丈など校則遵守を徹底すること、教室や廊下などの環境整備に配慮すること、受験体力を十分に身につけ、欠席をしないこと、自学自習力を高めるために旭陵館などの自習室を活用することなど、基本的な事を徹底させましょう**。
- ・志望校は譲らないでください。志望校は今上げるぐらいで丁度良いです。志望校を下げると、**受験学力も低下します**。

さて、今回のテーマは「**君たちは新書を十分に読んでいるか？**」です。受験学力を向上させる近道は新書を読んで読解力を向上させることですが、君たちはこの観点が欠けていると思います。大学の目的は**学校教育法第52条**で「**学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。**」と定められています。だから、日本の大学は**資格を授与することや就職を斡旋する場所ではない**のです。そして、大学入試では**アドミッションポリシー**と呼ばれる大学受け入れ方針が年々、強調されており、それに従い、受験内容が定められ、テストが作成され、受験学力が測定されますが、そこでは主に今までの学習活動によりどの程度、**教養**が身につけているかを測定しています。では、**教養**とは何か？様々な解釈がありますが、教養教育を意味する**リベラルアーツ**では、主に聖書を読み解くための能力（論理、修辞、文法）と神の摂理による自然現象を理解するための能力（天文、算術、幾何、音楽）から構成されていました。つまり教養とは、キリスト教における「神につながる」力を意味していたのです。国際基督教大学の村上陽一郎先生は**生きていく上で価値判断の基準となる自分なりのものさしを持っている人**のことを教養がある人だと定義しています。また、ドイツ中世史の研究者の**元一橋大学学長阿部謹也先生**は、中世において欧州で都市が発展した際に、**都市生活者が「いかに生きるか」を考えるようになったことが教養**の始まりと述べています。多くの新しい職業が誕生し、それまで当然とされてきた父親の仕事を継ぐことから解放されて、自分の力で「いかに生きるか」を考える人々が出現しましたが、彼らは古典語（ラテン語）を学び、「いかに生きるか」に思いを巡らしたようです。当時の教養とは古典語に精通することでもありました。進路指導で「君は将来、何になり（裏面につづく）」

なりたいの？」と問いかけられたことがあるかと思いますが、それは阿部先生の解説とは逆になるかと思います。さらに、数学者の**藤原正彦先生**は、**人間にとって最も大事なものは論理ではなく情緒であり、日本語の能力であると主張されています。数学者が日本語の能力が重要だと述べられている点が面白い**ですよね。このように教養の意味は人によって解釈が違います。だから、教養とは何かについて考える、或いは各自の基準を持った上で、確かな**教養を身につけるには新書を中心に高校・大学時代に多くの本と出会うことが大切**だと思います。以前、藤原先生の「**教養は読書以外では身につかない**」という記事を読み、共感したことがあります、その一部を紹介したいと思います。

Q：教養というものがすでによくわからなくなって、ものを知っていることが教養だとなっているようなところがあるんですが

藤原正彦先生（以下F）

教養は博覧強記とは違います。生活に役に立つことは教養じゃないんです。文学、歴史、芸術、思想というものは何の役にも立たないでしょう。しかし、こういうものをきちんと身につけていることが重要なのです。それがないと大局観や長期的視野というものはできない。もちろん、仕事などのいろいろな判断も、理性を働かせて論理的、かつ合理的に考えていけば、普通の生活はできる。しかし、家庭や学校においてきちんと子供を育てたいと思う人たちは、大局観や長期的視野が必要です。それには教養を身につける以外にはない。そして、教養は読書以外のツールでは身につけません。本を読んで活字を一個一個追う。この苦しみ以外には身につかないということです。そのためには忍耐力、それから国語の力が必要だということです。

Q：欧州はラテン語という柱がありますが、高校で古文などを、ちゃんと学んでおく必要がありますか。

F：古文や漢文はきちんと学ばないとだめです。例えば、歴史のある国々は必ず暗唱すべき古典的な文章があるのです。ところが、日本の暗唱すべき文章は、ほとんど全部が古語か文語なのです。現代文はほとんどないのです。日本語の美しいリズムの源泉は古語や漢詩にあるので、朗読、暗唱を徹底的にやる。そういうものを暗唱していると、美しい日本語のリズムが身につきます。また、そういうものを暗唱したりすると、情緒が身につきます。日本の古典は、もののあはれというのがいくらでもあるし、日本の詩歌では、万葉集の頃から素晴らしい情緒がずっとあるわけでしょう。さらに、独創力や創造性を育むことに繋がることにもなると思うのです。例えば、私は今までに数学がとても得意な子供達の学習歴を調べていますが、そういう人たちは算数や数学なんか全然やっていないんですよ。みんな古典的な文章を暗唱しているのです。

Q：論理的思考が日本には最も欠けているという話もあります。

F：それは確かです。アメリカの学生は論理的に本当にうまいです。海外に出て活躍する人はやはり論理的思考を必要とします。ただ、論理的思考というには、結局は論理的な言語技術ということなのです。だから、言葉やレトリック、ハッタリ、全部入ります。あるいは話している最中に聞いている人たちの心理を洞察することも入るでしょう。したがって論理的思考の養成を国語科する必要はあります。ただし、論理だけではだめで、やはりその中に内容をきちんと整えないといけない。そのためには、やはり、教養、読書ということになるわけですね。そうすると、最後は国語に戻るわけです。

以上です。今もこの文章をわかりにくくて読む気にならんとした生徒は直ちに読書に励んでください。

（文責・進路指導部・松村）